

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

なし

---

(発行年 / Year)

1910

### 第三款 連帶債務

(理由) 既成法典ハ羅馬法以來ノ立法例ニ依リテ債權者間ノ連帶ト債務者間ノ連帶トヲ認メタリ然レトモ債權者間ノ連帶ハ實際ニ於テ稀ト共通用ヲ見サルヲ以テ特ニ之ニ關スル規定ヲ置カス故ニ本案ハ題シテ連帶債務ト云ヒテ債務者間ノ連帶ヲ規定シタリ又既成法典ニ於テハ全部義務ナルモノヲ認メタリト雖モ是レ主トシテ連帶債務者間ニハ代理關係アリトスル主義ヲ採リタル爲メ別ニ斯ノ如キ一種ノ債務ヲ認ムルノ必要ヲ感シタルモノナラン然レニ下ニ連テフル如ク本案ニ於テハ連帶ニ付キ此主義ヲ採ラザレバ以テ更ニ全部義務ト稱スル如キモノヲ認ムル必要ナシ故ニ本案ニ於テハ之ニ關スル規定ヲ削除セリ

既成法典ハ連帶債務者間ニ代理ノ關係アルモノトシテ廣ク其結果ヲ認メタリ即チ例ヘハ一人ノ連帶債務者ノ過失ニ付テモ他ノ連帶債務者ハ其責任ヲ可キモノトシタル如シ然レトモ此ノ如キハ過失責任ノ原理ニ悖リ且ツ當事者ノ意思ニ反スルモノニシテ返答ノ立法例ハ代理關係ヲ認メサルノ主義ニ傾ケリ故ニ本案ニ於テモ亦キ此主義ヲ採用シ代理關係ノ存在ヲ認メス然リト雖モ連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ連帶債務者ニ對シテ每ニ其效ヲ生スルコト其當ヲ得サルヲ以テ或場合ニ於テハ連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ト雖モ他ノ連帶債務者ニ對シテ其效ヲ生スルモノトナレザリ要スルニ本案ニ於テハ連帶債務者間ニ代理關係ノ存スルコトヲ云ハスレテ唯實際ノ必要アル場合ニ限り連帶債務者ノ一人ニ付キ生シタル事項ハ他ノ連帶債務者ニ其效ヲ及ボス可キトシテ規

定シテ然レトモ當事者ノ契約ヲ以テ本案ノ主義ト異ナリタル結果ヲ生ゼシムルコトヲ得ルハ勿論ナリトス

債權擔保編第五十一條ハ實質上何等ノ規定ヲモ設ケタルモノニ非サルカ故ニ之ヲ置クノ必要ナク同第五十二條第一項ハ連帶債務ノ性質ヲ掲ケ債務者間ニ代理ノ關係アルコトヲ示シタルモノナリト雖モ本案ニ於テハ已ニ連ハタルカ如ク斯ル思想ヲ以テ立法ノ根據トナササルカ故ニ共ニ之ヲ削レリ同條第二項ハ連帶債務ノ原因ヲ示シタルモノナレハ之ヲ置クノ必要ナク同第五十三條ハ殆ク疑ナキ規定ナルヲ以テ均レク之ヲ削除セリ同第五十九條ハ判決及ヒ自白ノ效力ニ關スル規定ニシテ判決ノ性質ト相容レサルモノトス且夫レ斯ノ如キ事ハ畢竟證據ニ關スルモノナレハ之ヲ手續法ニ譲ルヲ至當トス殊ニ自白ヲ以テ判決ト同一ノ效力ヲ有スルモノトシタル如キハ最モ其當ヲ得サルモノト謂フヘシ同編第七十二條ニ規定ハ連帶債務ニ付キテノモノ之ヲ適用ス可キモノニ非ズ保證債務ニ付キテモ此ノ如キ規定ヲ採用セサル可ラス要スルニ同條ニ規定ハ連帶債務者ノ一人カ代位ヲ妨ケラレタル場合ニ於ケル債權者ニ對スレテノ制裁ナルヲ以テ代位併濟ノ規定ニシテ之ヲ掲ケタルヲ至當トス

#### 第四百三十一條

(理由) 本條ハ債權擔保編第五十四條ニ字句ノ修正ヲ加ヘタルモノニ外ナラス今諸國ノ立法例ヲ見ルニ本條ニ規定スルカ如キ連帶ノ效力ヲ認メサルモノナレ唯我訴訟文例ニハ之ニ反スル條項アルノ

債權擔保編第五十五條ノ規定ハ言フ俟タサルノミナラス併濟ニ關スル規定アルカ爲メ特ニ之ヲ設ケルノ必要ナレ同第五十六條ハ之ヲ置クノ必要ヲ見ズ蓋シ連帶債務者ヲレテ延期抗辯ヲ有セシムルコトノ果シテ至當ナルヤニ付テハ大ニ疑ナキ能ハス又同條第一項末文ニ所謂訴ヲ受ケタル連帶債務者ノ一人カ被告タルコトハ明文ヲ俟タズステテ明ク所ナルヘシ其第二項ハ民事訴訟法ノ規定アルカ爲メ重複ニ互ルモノト謂フ可シ要スルニ原文ノ如キ手續法ニ定ムルハキ事項ナルヲ以テ之ヲ削レリ

#### 第四百三十二條

(理由) 本條ハ解釋上或ハ疑ヲ生スルコトアランヲ恐レ特ニ之ヲ設ケタルモノナリ蓋シ連帶債務ハ債務者ノ多數ナルニ拘ハラス一個ノ債務ナリトスル論者ハ或ハ本條ノ規定ト異ナリタル解釋ヲ爲スコトアル可シ然レトモ連帶債務ヲ以テ一個ノ債務ナリトスルコト否トニ拘ハラス實際ノ結果ニ於テ本條ノ規定ノ如クナラサル可クナルコトハ近時學說ノ殆ク一定スル所ナリ既成法典ハ取消ノ場合ノミニ付キテ規定ヲ設ケタルヲ以テ無効ノ場合ニ於テハ如何ナル結果ヲ生ズヘキカニ付キ疑ヲ生ズルニ至レリ故ニ本案ニ於テハ無効ノ場合ト取消ノ場合トニ付キ區別ノ存セサルコトヲ明ニセリ

#### 第四百三十三條

(理由) 本條ノ規定ハ既成法典ノ主義ヲ採用シタルモノニシテ債權擔保編第六十一條第一項及ヒ第六十二條ニ該當スル本條ノ如キ規定ハ諸國ノ法典ニ於テ均ク認ムル所ニシテ連帶債務者間ニ代理關係ノ





(理由) 本條ハ財産編第五百二十五條第一項ニ字句ヲ修正シテ施シタルモノニ過キス只原文ノ如ク記載スルトキハ求償ノ點ニ於テ疑ヲ生スヘキヲ以テ本條末文ノ如ク改メタリ

### 第四百三十八條

本條ニ於テ第四百三十三條ニ於テ連帶債務者ノ一人ニ對スル履行ノ請求ハ他ノ債務者ニ對シテモ其效力ヲ生ズルモノトセリト雖モ連帶債務者ノ一人ニ付キ生ズル他ノ時効中斷ノ原因ハ他ノ債務者ニ對シテ其效力ヲ生ズルモノト爲シタルカ故ニ連帶債務者ノ一人ニ對スル時効中斷ハ必スモ他ノ債務者ニ對スル時効中斷ト爲ラス又連帶債務者中ニハ或ハ期限ヲ異ニシ或ハ條件附ニテ債務ヲ負擔スル者アルコトヲ得可キカ故ニ時効ハ各連帶債務者ニ付キ其進行ヲ始ムル時期ヲ異ニスルコトアリ從テ連帶債務者ノ一人ノ爲メニ時効ノ完成シタルニ拘ハラズ他ノ債務者ノ爲メニハ未ダ時効ノ完成セザルコトアリトス今此場合ニ於テ債權者カ尙ホ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシトモハ時効ノ利益ヲ享ケヌル債務者ノ負擔部分ハ時効ノ利益ヲ享ケサル債務者ノ負擔ニ歸スルノ結果ヲ生スルニ至ル可キナリ之ニ反シテ債權者ヲレテ時効ノ利益ヲ享ケタル債務者ノ負擔部分ニ付キ權利ヲ失ハシムルモノトモ實際公平ナル結果ヲ生ズルニ至ル可キ蓋シ債權者ハ時効ノ完成ヲ妨ケザルニ付キ過失アルヲ以テ自ラ其實ニ任セザル可カラレハナリ

### 第四百三十九條

(理由) 本條ノ規定ハ既成法典ニ於テ之ヲ見ス既成法典ハ時効ノ停止ヲ除キ連帶債務者ノ一人ニ付キ生ズルタル事項ハ不利トヲ問ハス總テ他ノ債務者ニ效力ヲ及ホスモノト爲シタリ此事タルヤ既成法典ニ於ケルカ如ク連帶債務者間ニ代理關係ノ存スルコトヲ認ムルトキハ一理ナキニ非スト雖モ本條ニ於テハ此ノ如キ代理關係ノ存在ヲ認メサルヲ以テ別段ノ定ナキ限りハ連帶債務者ノ一人ニ付キ生ズルタル事項ハ他ノ債務者ニ對シテ效力ヲ生ズルモノトセリ殊ニ既成法典ニ於テ連帶債務者ノ一人ノ過失ニ付キ他ノ債務者ノ亦モ其責任スヘキモノトナシタルハ尤モ其當ヲ得サルモノト謂フ可シ又債權者ノ連帶債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノ免除ヲ爲シタルトキハ他ノ債務者ハ其債務者ノ負擔部分ニ付キ責ヲ免ルヘキモノトスル財産編第五百九條第一項ノ規定ノ如キモ亦當事者ノ意思ニ反スル不當ノ規定ト謂ハサルヘカラサルナリ

### 第四百四十條

(理由) 本條ハ債權擔保編第六十九條ニ該當スルモノナリ今本條ノ說明ヲ爲スニ先チテ同編第六十七條及ヒ第六十八條ヲ削除シタル理由ヲ説明スルコトヲ要ス第六十七條第一項ハ連帶ノ性質ヨリ當然生スヘキ結果ニ過キス又債權者ハ數人ノ連帶債務者ニ對シテ同時又ハ順次ニ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ故ニ同條第二項前段ノ如キモ特ニ之ヲ置クノ必要ナレ或ハ其他書ヲ喚起スル爲メナラシモ是亦言フヲ俟タサル所ナリト信ス何ントナレハ債權者ハ已ニ債權ノ全額ニ付キ清算ニ加入シタルモノナルヲ以テ若シ自己ノ負擔部分ヲ超ヘテ辨濟ヲ爲シタル債務者カ清算ニ加入スルトキハ同一ノ債權ニ付キ再度清算ニ加入スルヲ結果ヲ生ズルヲ以テナリ加之此但書ナキカ爲メ解釋上疑ヲ生ス



ヘキモノト假定スルモ自己ノ負擔部分外ニ辨濟ヲ爲シタル債務者カ清算ニ加入セントスル場合ニハ  
 已ニ清算ノ結了スルコト多カルヘキヲ以テ實然ニ於テハ期合ノ生スルコト極メテ多少ナルベシ  
 故ニ特ニ之ヲ規定ヲ置クノ必要ヲ見ケルナリ債權擔保編第六十八條ノ規定モ亦モ特ニ之ヲ置クノ必  
 要ナレ蓋シ一部ノ辨濟ヲ受ケタル債權者カ全額ニ付キ清算ノ加入スルトキハ前後二重債權ノ辨濟  
 ヲ求ムルノ生ズヘク又一部ノ辨濟ヲ爲シタル債權者ハ無實力ト爲リタル債務者ノ對シテ求償  
 ヲ求ムルコトヲ得ヘキ債權者ニ外アラサルカ故ニ其清算ニ加入スルコトヲ得ルハ論ラ後モサレ所ナ  
 レハナリ

債權擔保編第六十九條ハ連帶債務者一同又ハ其中ノ一以上ノ無實力トナリタル場合ニ關スル規定  
 ナリ同條第一項ハ連帶ノ性質ヨリ生ズル結果ニシテ諸國ノ法典ノ規定ヲ見ルニ皆然ラサルハナレモ  
 案ニ於テモ亦モ此主義ヲ採用シテ本條第一項ヲ設ケリ然レトモ其第二項ハ極メテ當ラザル規定  
 ナリト謂ハサルヲ得ス此規定ニ依ルトキハ債權者カ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキトキ雖モ決  
 レテ全額ヲ受クルコトヲ得サルナリ凡ソ債權者アレテ債權ノ全額ニ付キ清算ニ加入ルコトヲ得セシ  
 ムル所以ハ之ヲレテ成ル可ク完全ナル辨濟ヲ受クルコトヲ得セシメンカ爲メナリ然ルニ今全部ノ辨  
 濟ヲ受クルコトヲ得ヘキニ係ハラス之ヲ受クルコトヲ得セシメサルハ前後相抵觸スルモノト謂フ可  
 レ草案ノ説明ヲ見ルニ若レ右ノ規定ナキトキハ債權者ハ債務者カ無資者トナラサル場合ヨリモ多額  
 ノ辨濟ヲ受クルコトトナルヘレトアリ然レトモ債權者カ其債權額ヲ超ヘテ配當ヲ受アルコト能ハサ

ルハ一般ノ原因ニ依リテ明ケルノミナス破産法ノ規定ニ依リテ生ズル所ナル可レ  
 又既成法典ハ連帶債務者カ順次ニ無實力トナリタル場合ノミヲ豫想シテ規定ヲ設ケタルヲ以テ其ノ  
 同時ニ無實力トナリタル場合ニ付テハ原文ノ適用極メ困難ナルヘシ之ヲ要スルニ連帶債務者數人  
 カ同時又ハ順次ニ無實力トナリタル場合ニ付キ區別ヲ爲スコトナラ債權額ヲ超ヘサル限度ニ於テ債  
 權者ニ對スル配當額ヲ定メザルヘカラサルナリ  
 既成法典ノ無實力ノ文字ヲ改メテ破産ト爲シタルハ本案ノ主義ニ依リ破産ハ簡單ニミ限ラ  
 以テ無實力ノ場合ニ於テハ破産ノ結果ヲ生ズヘキヲ以テナリ

第四百四十一條

(理由) 本條ノ規定ハ債權擔保編第六十二條ニ字句ヲ修正ヲ加ヘタルモノニ外ナラス

第四百四十二條

(理由) 本條ハ債權擔保編第六十五條ニ該當ス同條ニ於テハ保證ニ關スル同編第二十一條及ヒ第二十二  
 三條ノ規定ヲ適用スヘキコトヲ規定セリ而シテ第三十三條ノ規定ニ依リテキハ債權者カ債權者ヨリ  
 訴出受ケタル場合ニ限リテ同條ノ適用ヲ生ズルモノニシテ多少ノ狭キニ失スルモノト謂フ可レ故ニ  
 本案ニ於テハ債權者カ連帶債務者ノ一人ニ對シテ訴出爲シタル場合ニ限ラサルコトヲ明ニセリ又和  
 殺ニ付キ本條但書ノ如キ規定ナキトキハ適用上疑フ生ズヘキヲ以テ實際ノ便宜ヲ考ヘ成ルヘ公平  
 ナク結果ヲ得ル爲メ此規定ヲ置クコトニセリ

第四百四十三條

本條第二項ハ債權擔保編第六十五條及第三十三條ノ規定ニ些少ノ修正ヲ加ヘタルモノニ外ナラス  
（理由）本條ノ規定ハ債權擔保編第六十六條ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ同條ニ無資力者ノ部分トアル  
ヲ改メテ其價值タルコト能ハサル部分ト爲シタル無資力ノ部分ト云フトキハ其ノ負擔部分ノ全額  
ナルカ如ク觀アルヲ以テナリ

第四百四十四條

（理由）本條ハ債權擔保編第七十一條第二項ノ字句ヲ修正シテ一層其主意ヲ明ニシタルモノニ外ナラ  
ス此規定ナキトキハ佛伊民法ノ解釋上ニ於ケル如ク疑ヲ生シ連帶ノ免除ヲ得タル者ト債權者トニ於  
テ無資力者カ擔保スルコト能ハサル部分ヲ負擔スルコトト爲リ連帶ノ免除ヲ得タル者フレテ其利益  
ヲ享クテコトヲ得セシメサル結果ヲ生スルニ至ルヘキナリ

第四款 保證債務

（理由）本款ハ既成法典債權擔保編第一章ノ規定ニ該當ス其實質ニ至リテハ二者ノ間ニ大差ナ  
レト雖モ外形ニ於テハ大ニ相異ナルモノアリ諸フ左ニ其異同ヲ說示セン

一 既成法典ハ明文ヲ以テ保證ノ種類ヲ二別シ任意ノ保證法律上ノ保證及ヒ裁判上ノ保證ニ保  
證ノ原因ニ基キテ之ヲ區別スルトキハ或ハ此三種ノ別ヲ得レト雖モ特ニ法文ヲ以テ之ヲ明示ス  
ルヲ要セザルナリ而シテ既成法典ハ此區別ヲ明示スルニ拘ハララス其規定ニ至リテハ殆レト全ク右三  
種ノ保證ニ共通ノモノニシテ擔保編第三條ヲ以テ其趣ヲ明カラニセリ獨リ同編第四節ノモ法律上  
及ヒ裁判上ノ保證ニ特別ナル規則トセルモノ右ノ條文タルヤ或ハ不必要ノモノナリ或ハ不適當ノモノ  
ニシテ一モ存置置クノ必要ナキヲ以テ第四節ハ全ク之ヲ削除スルニ至レリ今簡單ニ各條ニ付キテ其  
削除ノ理由ヲ示サン

第四十七條第一項ハ同第十五條ノ適用ニ過キス唯既成法典第十五條ニハ債務者カ保證人ヲ立ツ可キ  
合意ヲハ義務ヲ負ヒタルトキハト言ヘルニ因リ法律ノ規定文ハ判決ニ從ヒテ保證人ヲ立ツル義務  
ヲ負ヒタル場合ニ關シテハ特ニ同項ノ如ク言フノ必要生スルモ本案第四百五十二條ノ如ク況テ債務  
者カ保證人ヲ立ツヘキ義務ヲ負フ場合トスルトキハ其中ニ總テノ場合ヲ包含セタルヲ得ルナリ又  
同條第二項ノ規定ハ保證人承認ノ手續ヲ民事訴訟法ニ讓レルモノナリト雖モ是レ不必要ナルノミナ  
ラス民事訴訟法ニハ特ニ保證人承認ノ手續ヲ定メサルカ故ニ此規定ハ之ヲ適用スルニ由ラザルモノナ